

講義レジュメ

講 師 佐々木亨

内容・テーマ

地域の核となる博物館の運営

- 博物館戦略マップの作成を通して -

期 日 12 / 11

この講義・演習では、「戦略マップとバランス・スコアカード」を用いて、地域における博物館の新しい価値を創り出す方法を学んでいきます。

「戦略マップ」は、ありたい姿（ビジョン）に向けた複数の戦略（政策・施策）の因果関係を、「4つの視点」に基づいて整理したものです。一方、「バランス・スコアカード」とは、「4つの視点」に基づき、戦略と評価指標を階層化して示したもので、複数の評価指標を矛盾なく整合させ、戦略の共有化を図るものです。この手法は、当初、民間企業で発達したものであり、「4つの視点」とは通常、「財務の視点」、「顧客の視点」、「業務プロセスの視点」、「学習と成長の視点」を指します。

講義では、

1. 「戦略マップとバランス・スコアカード」とは何かについて説明します。
2. 民間企業や非営利組織における「戦略マップとバランス・スコアカード」の事例を紹介します。
3. 最後に、我が国の博物館評価でよく用いられている「業績測定手法」と「戦略マップとバランス・スコアカード」を比較し、両者の相違点を検討します。

演習では、1グループ5～6名のグループを作り、グループごとに「戦略マップとバランス・スコアカード」を作成するワークショップ（WS）を行います。その前に、以下の設定や定義などを行います。

- 1) 検討対象の決定、およびその事業の使命やビジョン、ありたい姿の設定
(検討対象：展示や教育普及などの既存の事業、または博物館の手段的価値を創り出す新規事業)
- 2) 視点の選択（「4つの視点」のほか、「環境・生態の視点」「協働の視点」を加えて選択）
- 3) 用語の定義または読み替え

WSでは、対象事業に関する「戦略マップとバランス・スコアカード」をグループごとに作成します。

【参考文献】

石原俊彦編著『自治体バランス・スコアカード』（東洋経済新報社, 2004）

龍慶昭・佐々木亮著『「政策評価」の理論と技法（増補改訂版）』（多賀出版, 2010）

ロバート・S・キャプラン, デビット・P・ノートン著『戦略マップ（復刻版）』（東洋経済新報社, 2014）